

## 図書 紹介

### 知っておきたい 新公衆衛生

著：日本環境衛生センター

発行：(一財)日本環境衛生センター／〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 10-6／

☎044-288-4967／A5判／146頁／価格 1000円(税別)／2015年3月30日発行

本書は、行政と住民が一体となって取り組んできた蚊やハエの駆除、汚水側溝へのたれ流しなど身の周りの生活環境の移り変わりを踏まえ、国立保健医療科学院や国立環境研究所の行政研究の第一線の10名以上の研究者が、知っておきたい新たな視点からの公衆衛生を分かりやすく解説した著書である。また、この書のもう一つの特徴は、本書の発行所である一般財団法人日本環境衛生センターが出版している月刊誌「生活と環境」に13回シリーズとして連載された、「新公衆衛生概論—健康で快適な社会のために—」に修正や新たな項目を追加し、刊行されたものである。そのブックレット版としての本書は、現代的な地域保健の多くの課題に取り組むに当たって、地域住民の健康維持に向けて公衆衛生学の基本を学ぶ一助となるものと確信する。

本書は大きく4つの内容（新公衆衛生概論、建築物の衛生、環境衛生関係営業施設の管理、健康影響とその対策）から構成されている。

第1章は、厚生労働省が実施している「健康日本21」において強調している健康格差の縮小、それらの課題解消と健康的なまちづくりに向けたソーシャルキャピタル（社会関係資本）に関する話題など、これからの公衆衛生活動について触れながら現実的な5つの課題について解説している。1つ目は、日常生活での各種リスク要因を科学的に評価し、行政施策を実施するために理解すべきリスク評価の基本的概念や評価プロセスを解説している。2つ目は、近い将来起こる可能性がある首都直下、東海、東南海・南海地震、あるいは火山噴火、気候変動に伴う集中豪雨などの種々の天災、テロ等に備えるための健康危機管理について概説している。3つ目は、生命に必要な飲料水の安全に関して、水道の普及と法整備によって激減した水系感染症や、新しい時代の安全な水の供給を確実にするシステム作りを目指す水安全計画の推進について記している。4つ目は、最近話題のハチ、ネズミ、トコジラミ、ヒトスジシマカなど幅広いペストコントロールについて記している。5つ目は、感染症の予防だけでなく、健康を守り快適な環境を形成するために重要な役割を果たしてきたゴミ、し尿・生活雑排水対策について触れている。

第2章では、「建築物の衛生」として、建築物衛生の概要、個別空調の普及や省エネの

観点から生じている過度な換気抑制による室内空気汚染の現状、建築物衛生法管理基準の管理状況、最近注目されているPM2.5や微生物問題など幅広い話題を述べている。さらに、シックハウス問題の新たな動きや一般住宅における室内空気質の現状と課題についてまとめている。

第3章では、国民の生活に関連の深いクリーニング、理容、美容、興行場、旅館、公衆浴場などの業種に関連した生活衛生営業六法に基づき、特にレジオネラ問題や消毒を中心とした理美容における適切な衛生管理技術を分かりやすく解説している。

第4章では、「健康影響とその対策」として、2020年の東京オリンピックに向けた受動喫煙のないたばこフリー環境の社会を作り上げるための対策や、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて長期にわたって向き合っていかなければならない放射線の課題、また、医療法で施設基準等が定められ、建築物衛生の点からも重要な対象となる病院建築について歴史的変遷を踏まえまとめている。

この様に本書は、大学の講義では取りあげないような我々の身の周りの実際社会において起こっている事象を取り上げ分かりやすく解説している。

(摂南大学名誉教授 中室克彦)